

やまなし城・居館めぐりのススメ

北杜・韮崎
甲斐・甲府編

山梨には、我が武田氏をはじめとした、甲斐源氏や徳川氏などが、残した痕跡が数多くある！
それらの文化財を、巡ってみよう！



文化庁令和3年度「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」

凡例

- = 城跡、烽火台跡、砦跡
- = 館跡、屋敷跡
- = 寺院
- 卍 = 神社
- = 遺跡、石碑、墓など
- = オススメルート
- = 健脚ルート
- = 川・水路
- = 電車
- ♀ = バス停

お城用語解説

- 城(しろ)** ▶ 防御施設が施された建物や設備。平地に造られた平城、丘などの高まりに造られた平山城、山に造られた山城がある。城持ちになっていっちょ前!
- 館(やかた)** ▶ 居館ともいう。武将や領主が日常生活をする場所。周囲に堀や堤などの防御施設をもつものもある。国主レベルの守護館から村役人クラスの屋敷まであるよ。
- 烽火(のろし)台** ▶ 狼煙台ともいう。敵の攻撃などを知らせるため、物を燃やすことによって煙を上げて合図や連絡をするための施設。1時間に200キロの速さで伝えられたスーパーアイテム!
- 曲輪(くるわ)** ▶ 郭ともいう。土塁や石垣、堀などで区画された場所。曲輪が多いほど防御力が上がるよ!
- 堀** ▶ 敵の侵入を防ぐために城や館の周りに掘られた溝。水を入れた水堀と溝だけの空堀がある。水が入ると防御力アップ!
- 堀切(ほりぎり)** ▶ 山城や烽火台のある尾根を分断して敵の侵入を防御する堀。山城必須アイテム!
- 土塁(どるい)** ▶ 敵の侵入を防御するために城や居館に巡らされた土盛り。守りやすく攻めにくいアイテム。
- 石垣(いしがき)** ▶ 石積ともいう。主に城を区画する際に石を積み上げて敵の侵入を防ぐための城壁。時代により石の積み方が異なるよ!
- 大手(おおて)** ▶ 城の正門があるところ。殿様の入城はここから!
- 虎口(こぐち)** ▶ 小口ともいう。城の出入口。敵の侵入を防ぐために狭くなっている。守りやすくなっているのが特徴。
- 馬出(うまだし)** ▶ 出入口の前に堀や土塁・柵などを配置した虎口の一つ。敵が直進して突入できなくするアイテム!
- 櫓(やぐら)** ▶ 敵の監視や迎撃を目的とする施設。防御力アップの必須アイテム!

編集・発行 山梨県埋蔵文化財センター 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL.055-266-3016
 協力 甲府市教育委員会・韮崎市教育委員会・北杜市教育委員会・甲斐市教育委員会
 印刷 青柳印刷株式会社

※ウォーキングする際はマナーを守って見学してください。狩猟解禁期間は明るい服を着るなど注意してください。山間の土地を見学する際には、猿や鹿などの獣に注意してください。※無断で複製・掲載を禁じます。

山梨県の中世から近世

甲斐源氏の始まりから甲府の始まりへ

平安時代後半から鎌倉時代

〔約1100年前から約700年前〕

甲斐源氏は源義光の息子である義清を始まりとして、甲斐国(山梨県)で勢力を張った武士団です。義清は甲斐守に任じられ、義清の代になると、本格的に甲斐市川荘(市川三郷町)に拠点を置きました。逸見清光、加賀美遠光、安田義定など義清の子どもたちは、各地に拠点を展開し、その中の一人、逸見清光は八ヶ岳南麓を中心に活動します。また信義は武田氏を名のり、韮崎の地に拠点を展開し、武田信玄に代表される甲斐武田氏に繋がっていきます。

室町時代から戦国時代

〔約700年前から約450年前〕

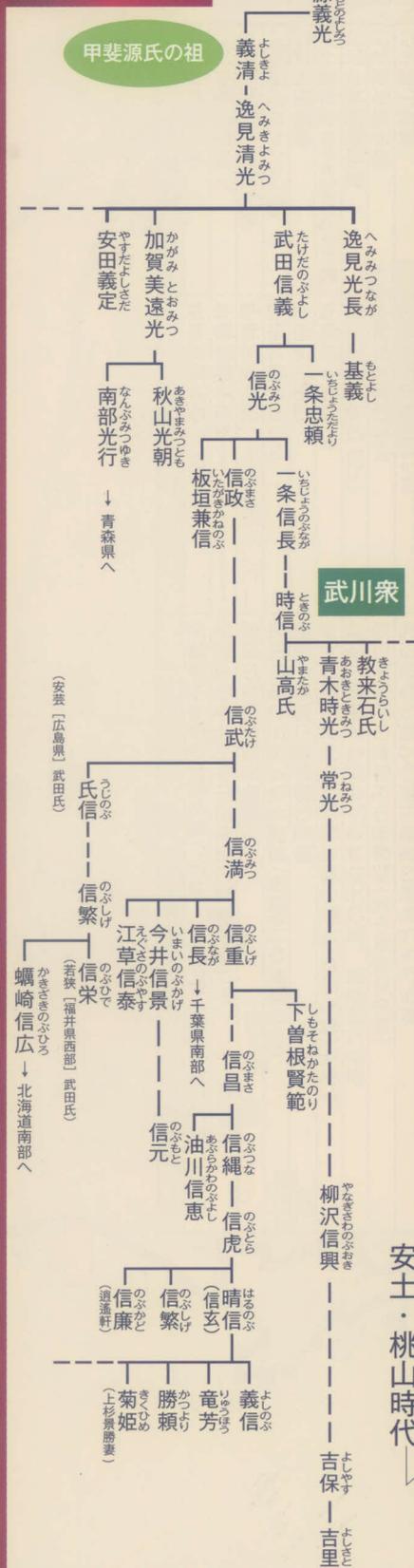
室町時代の中頃、信満の代に上杉禅秀の乱に加担して甲斐国の守護であった武田氏が一時期衰退してしまいます。その間に八ヶ岳南麓の逸見氏などが力を持ち、武田氏と対立するようになります。逸見氏との対立は武田信虎が甲斐国を統一するまで続ようになります。甲斐国を統一した信虎は川田 150 (甲府市川田町)にあった拠点を躑躅ヶ崎 125 (甲府市古府中)の地へ移し、信濃国(長野県)の諏訪氏や駿河国(静岡県)の今川氏などの他国の勢力と争うようになります。息子の晴信(信玄)の代になると信濃国への積極的な侵攻を行うと同時に、領国の内政に力を入れました。信玄の跡を継いだ勝頼は新府城 67 (韮崎市巾田町)に拠点を移すなど領国維持に努めますが、織田信長による侵攻を受け、甲斐武田氏は滅ぼされました。

安土・桃山時代から江戸時代

〔約450年前から約150年前〕

武田氏滅亡後、数ヶ月後に織田信長も倒れ、甲斐国には領主がない状態となります。そこに隣国の徳川氏と北条氏が甲斐国の領土を得ようと互いに争い、天正壬午の乱が起こりました。その結果、徳川氏が甲斐国を支配することになり、家臣の平岩親吉により、甲府城の建設が始まります。その後、豊臣氏の勢力下となり、浅野氏の時代に甲府城が完成します。甲府には徳川氏直系が入りますが、綱重の子綱豊(後の6代將軍家宣)が藩主となった後、交代して、宝永元(1704)年に5代將軍徳川綱吉の側用人であった柳沢吉保と、その子の吉里が甲府藩主になると、城下町の整備や堰の開削などを行い、甲府の発展に貢献しました。その後、幕府の直轄となり、町方は甲府勤番支配へ、在方は代官支配となりました。

甲斐源氏の系図



平安時代

鎌倉時代

室町時代

戦国時代

江戸時代

安土・桃山時代

時を超えた二つの城下町

甲府市

かいのくにふちゅう

現在の甲府駅周辺につながる甲斐国府中(甲府)の町並みは、中世では武田氏館跡を中心に広がっていた。その後、甲府城が築かれ江戸時代になると、町の中心は南へと移り、現在の甲府市中心街へとつながっていく。甲府は、中世と近世の二つの時代の城下町を堪能できる特徴的な場所である。



武田城下町

永正十六(1519)年に武田信虎が躑躅ヶ崎(甲府市古府中)の地に館を移し、信玄・勝頼の時代まで居所であるとともに甲斐国の政治を行う府中とした。室町時代の將軍の居所(御所)を意識した守護館や城下町が整備され、躑躅ヶ崎館(武田氏館跡(125))から南へ通る大きな道は、現在でも武田通りとして親しまれている。この道沿いには武田氏家臣の屋敷が配された。鍛冶工房や神社仏閣も城下町に集められ、信玄が領主の時には京都五山などにならって甲府五山が定められた。現在は、家臣の屋敷を示す看板などが設置されており、神社仏閣とともに巡り、当時の姿に想いを馳せることができる。

甲府城下町

武田氏滅亡後、徳川氏家臣の平岩親吉が城代として甲府に入り、甲府城の築城が始まったとされている。その後、徳川氏は領地替えにより関東に移り、甲斐国は豊臣氏の勢力範囲となり、豊臣氏家臣の浅野長政らによって甲府城が完成された。内堀で囲まれた城を中心に、一の堀で囲まれた武家地、二の堀、三の堀で囲まれた町人地や神社仏閣が広がり、堀で区画された近世城郭の特徴を表している。横近習町や魚町通りなどの町や通りの名前、土地の区画などは今でも残っており、江戸時代の城下町の名残を感じることができる。



- 114 武田竜芳供養塔 (聖道墓)
- 115 湯村山城跡
- 116 河尻塚
- 117 武田信玄火葬塚
- 118 城北幼稚園
- 119 甲府市立北中学校
- 120 関屋
- 121 法泉寺
- 122 万寿森古墳
- 123 和田の城山跡
- 124 山梨大学
- 125 武田氏館跡
- 126 竜華池
- 127 躑躅ヶ崎亭跡
- 128 甲府市立北東中学校
- 129 山梨大学グラウンド
- 130 甲斐英和 中学校・高校
- 131 史跡甲府城跡範囲
- 132 甲府市武田氏館跡 歴史館(信玄ミュージアム)
- 133 山梨県立甲府第一高等学校
- 134 山梨県立図書館
- 135 山梨県立図書館
- 136 山梨県立図書館
- 137 史跡甲府城跡範囲
- 138 山梨県立図書館
- 139 甲府市役所
- 140 甲府市立図書館
- 141 甲府市立図書館
- 142 御崎神社
- 143 梅屋敷天満宮
- 144 尊祓寺
- 145 教安寺
- 146 長禅寺
- 147 甲府城跡
- 148 愛宕神社
- 149 甲府城跡
- 150 尊祓寺
- 151 教安寺
- 152 妙遠寺
- 153 大泉寺
- 154 梅屋敷天満宮
- 155 御崎神社
- 156 甲府城跡
- 157 愛宕神社
- 158 甲府城跡
- 159 尊祓寺
- 160 教安寺
- 161 長禅寺
- 162 甲府城跡
- 163 愛宕神社
- 164 甲府城跡
- 165 尊祓寺
- 166 教安寺
- 167 妙遠寺
- 168 大泉寺
- 169 梅屋敷天満宮
- 170 御崎神社
- 171 甲府城跡
- 172 愛宕神社
- 173 甲府城跡
- 174 尊祓寺
- 175 教安寺
- 176 長禅寺
- 177 甲府城跡
- 178 愛宕神社
- 179 甲府城跡
- 180 尊祓寺
- 181 教安寺
- 182 妙遠寺
- 183 大泉寺
- 184 梅屋敷天満宮
- 185 御崎神社
- 186 甲府城跡
- 187 愛宕神社
- 188 甲府城跡
- 189 尊祓寺
- 190 教安寺
- 191 長禅寺
- 192 甲府城跡
- 193 愛宕神社
- 194 甲府城跡
- 195 尊祓寺
- 196 教安寺
- 197 妙遠寺
- 198 大泉寺
- 199 梅屋敷天満宮
- 200 御崎神社



甲信の国境の要 武川へむかう!

北杜市

北杜市武川町周辺には武川衆山高氏と柳澤氏が、今でも彼らの痕跡が各地に残っている。戦国時代に「鬼美濃」と呼ばれ、武田氏家臣の馬場(教来石)信春も武川衆の出自である。



武川衆とは
 武田信義の子孫一条時信を始祖とした地域集団で、北杜市から韮崎市の釜無川右岸の地域に拠点を展開したことから武川衆と呼ばれた。時信は子どもたちを教来石や山高、青木などの地域に分け、それぞれの地域の名前を名乗り、今でもその地名が残っている。彼らは武田氏の家臣であったが、天正壬午の乱ではいち早く、徳川氏に味方し、戦功をあげている。その後も徳川氏に付き従う一族もあり、柳沢氏は、江戸幕府の5代将軍徳川綱吉の側用人を務めた柳沢吉保を輩出した。柳沢吉保、吉里親子は甲府城主として甲斐国を治めた。

③② 中山砦跡
 釜無川沿岸の道を見渡せる位置にある山の頂上に造られた砦。主郭に高い土塁が残っている。天正壬午の乱では武川衆がこの砦に陣取って北条勢を破っている。北杜市指定史跡である。



スタート → 神代公園 200m 3分

③⑧ 実相寺
 武川衆のひとつ山高氏が居住したとされ、本堂の裏手に土塁が残っている。境内には国の天然記念物の山高神代ザクラと呼ばれる桜があり、春には多くの観光客が訪れる名所。



③⑦ 萬休院
 馬場信春の子の昌房が開いたとされる寺院。国の天然記念物の松が以前、植えられていたが、枯れてしまい、今は三代目の松が成長中。



900m 16分

③⑥ 幸橙神社
 一条忠頼が先祖の源義光をまつる。唐土という場所に建てたが、元亀元(1570)年に山高氏が現在の場所へ移して、山高氏の崇敬するところとなった。



2km 37分

③④ 柳澤氏発祥の地
 度重なる洪水でその痕跡はわからないが、武川の地には柳澤氏に關連する伝承地が伝えられている。



500m 2分

③⑤ 高龍寺
 山高親重が再興した寺院。北杜市指定文化財(建造物)である山高氏の代々の墓がある。



1.9km 35分

③③ 柳澤寺跡
 柳澤氏の創建と思われる、境内の六地藏石幢は明應五(1496)年に柳澤信興によって建立されたと考えられている。



ゴール 神代公園 2.5km 40分

展望台に登れば、長大な七里岩が目の前にドーンとそびえ立っています。

中山砦への道のりには猿などの獣がいるので注意。熊除けのすずは必須!

山高神代ザクラは、全国でも有数の桜スポット!

武田の軍道 棒道を歩く

北
杜
市

この地には武田氏が甲斐の国を統一する前に逸見氏などの大きな勢力がいた。ここは信濃へと向かう重要なルートで、武田信玄が軍用道路として整備したといわれ、棒道として伝わっている。

スタート 甲斐小泉駅 1.1km 15分

① 六所神社
逸見光長の長男の墓が式典を行ったことからこの神社が建てられたとされる。

② 法性寺
武田信玄が開基と伝えられる寺。川中島の戦いの戦勝祈願のために建立したという伝承がある。

このルート上にはいくつもの観音菩薩像が置かれており、旅人の無事を願ったとされています。

江戸時代には湧水を三方へ分けた三分一湧水。その方法は武田信玄が考案したという言い伝えがあります。

石造物群

北杜市立泉中学校

安楽寺

北杜市考古資料館

北杜市大泉体育館

谷戸城跡 駐車場

御崎神社

妙喜院

竣工記念碑

中央道長坂SA

北杜市立甲陽病院

中央道 八ヶ岳SA

長坂駅

ゴール 長坂駅 1.6km 25分

③ 清光寺
逸見清光が開いたとされる寺院で、墓地に清光の墓がある。甲斐源氏ゆかりの寺院として大事にされ、北杜市指定文化財である武田勝頼の禁制禁止事項を書いたものも所蔵している。

④ 谷戸氏館跡
安楽寺の南側で、近世の豪族谷戸八右衛門の建物跡が見つかった。また、中世の堀状遺構も見つかっており、これに土塁が付属していたと考えられることから、館跡の存在も推測されている。

⑤ 谷戸城跡
逸見清光の城と伝えられる。一から三の郭は高い土塁や深い堀に囲まれて、防御が厚くなっている。発掘調査では主郭から14世紀後半から15世紀前半の遺物が出土した。この時代は逸見氏が武田氏に抵抗していた時代である。城の上からは韭崎まで一望でき、この地を押さえるのに最適な場所である。国史跡。

⑥ 金生遺跡
縄文時代後期から晩期の集落が現地に復元されているが、縄文時代の遺跡の他に中世の掘立柱建物跡などが確認されている。これらは深草館⑮の外郭と考えられている。国史跡。

⑦ 深草館跡
館の主は逸見清光の子の光長とも、逸見氏家臣の堀内氏ともされる館跡。堀と川に囲まれて、川に沿って土塁が高く築かれているため、中に侵入することは困難である。内部は土塁により大きく三つの曲輪に分かれている。県指定史跡。

⑧ 小和田館跡
発掘調査によって見つかった館跡で、大きな堀に囲まれた中に、掘立柱建物跡や井戸跡などが発見され、茶碗や硯、水差しなどの遺物が出土した。また、館跡の東に位置する調査区からは竪穴状遺構など約6000枚もの銭貨が出土した。出土遺物から館跡は15世紀末から16世紀まで使われていたと見られるが、寺院跡の可能性も考えられている。

⑨ 金生水滴
金生遺跡出土の兎形水滴 (北杜市教育委員会提供)

⑩ 深草館跡

⑪ 谷戸城跡

武田氏最後の拠点

韮崎市

七里岩の先端に武田氏再起をかけた武田勝頼が新府城を築城した。しかし、再起はかなわず、武田氏滅亡後は天正壬午の乱で徳川氏の城として、北の能見城と共に對北条氏の城として使われた。この地は、武田氏から徳川氏へと移る激動の舞台であった。

スタート
穴山駅 1.3km 20分

⑥ 能見城跡
新府城の防壁として造られた城。山の中には土壘が、穴山駅の南側には堀切などが見られる。天正壬午の乱では北東にある堂坂の砦と共に、徳川氏が對北条氏の城として使用した。



能見城跡

3.5km
40分

⑦ 新府城跡
武田勝頼が長篠の戦いで織田・徳川連合軍に敗れた後、築かれた城。細長く切り立つ七里岩の上にたち、南に大きな三日月堀をもつ大手門や他の城にはない出構などを造り、武田氏の築城技術の集大成といえる城で、国の史跡に指定されている。



新府城跡

1km
15分

⑧ 光明寺
木曾氏の墓がある寺。武田勝頼の家臣であった木曾義昌が織田氏へ寝返ったことにより息子の千太郎と妹、乳母が処刑された地に眠る。境内には市の天然記念物であるカシの木がある。



木曾氏の墓

ゴール 3.5km
新府駅 40分

3.1km
45分

1.7km
30分

⑤ 大坪古戦場跡
享祿四(1531)年の河原部合戦で信濃の諏訪頼満が甲斐へ攻めてきたときに武田信虎がこの地で迎え撃った。この付近に殿田旗田などの陣に関する地名が存在する。



大坪古戦場跡

650m
10分

④ 若宮八幡宮
この地域の産土神で、天正十三(1585)年の棟札「韮崎市指定文化財」によると9世紀頃創建と伝えられる。天正十一(1583)年に社殿が倒壊し、天正十三年に徳川氏が土地を安堵して、七里岩の上から現地へ復興した。境内の鶴亀の松は韮崎市天然記念物に指定されている。



若宮八幡宮

新府城跡北側に堀へ水を供給したとされる桜ヶ池や湧水口がありましたが、今は残っていません。

桜ヶ池跡

堀の湧水口?

新府駅
ゴール

東京エレクトロニクス
韮崎文化ホール

藤井町坂井

韮崎中央公園

韮崎市民俗資料館案内看板

韮崎市民俗資料館

一ツ谷

東中学校前

墓地

平和観音

本町

韮崎駅

本町

か い こく も の の ふ みち 甲斐国武士の道～その一～

- 凡例
-  = 城跡、館跡、屋敷跡、烽火台跡、砦跡
 -  = 天正壬午の乱で徳川氏が使用した城跡
 -  = 天正壬午の乱で北条氏が使用した城跡
 -  = 寺院
 -  = 神社
 -  = 遺跡、石碑、墓、古戦場跡など

富士見町

武田の軍道 棒道を歩く

棒道

佐久往還

⑨ 白旗神社



白旗神社

巨石のご神体へんろしに自然石を積んだ多層塔が二塔立つ神社。逸見有義がこの地に白旗を埋めた後に神社として祀ったと伝わり、巨石を力強く踏むと太鼓をたたく音がするという。

⑫ 旭山塁跡



旭山塁跡

高根町を一望できる場所に建てられた砦跡。天正壬午の乱において、北条氏直と徳川家康が停戦した直後に氏直が造ったため、家康が怒り砦を放棄させた。砦の南側は横矢掛けや細長く続く土塁が明確に見られる。



天正壬午の乱のお城をめぐる！

天正壬午の乱で、甲斐国内は徳川氏と北条氏との戦場になりました。徳川氏は新府城⁶⁷や日ノ出城⁷¹、白山城⁸⁰などに、北条氏は谷戸城⁸や獅子吼城⁴⁹、若神子城⁴⁰などに拠点を置きました。これらの城は見晴らしがよい場所や交通の要衝を抑える場所に造られています。新府城と若神子城などは互いに相手を監視できる位置にあり、現在もこれらの城に登ると、それぞれの城を見通すことができます。実際に登って、見晴らしのよい壮大な風景を眺めたり、当時の様子に思いを馳せるのも、お城めぐりの醍醐味です！



甲信の国境の要 武川へむかう！

逸見路

武田氏最後の拠点

名称	所在地	概要
1 六所神社	北杜市長坂町小荒間 1742	武田基義が建てた神社
2 法性(ほうしょう)寺	北杜市長坂町小荒間 749	武田信玄が信州の戦いの時に建立したと伝わる
3 北野天神社	北杜市小淵沢町 3349	武田信玄や徳川家康が土地を寄進した
4 義光山矢(ぎこうざんや)の堂	北杜市小淵沢町 2139	平将門討伐の時にご利益のあった観世音菩薩を源義光が勧請
5 旧平田家住宅	北杜市小淵沢町 7761-4	武田氏家臣の末裔と伝わる平田氏の住宅(国の重要文化財)
6 逸見(へみ)神社	北杜市大泉町谷戸 1128	甲斐源氏の一族である逸見氏ゆかりの神社
7 谷戸(やと)氏館跡	北杜市大泉町谷戸字御所	江戸時代の土豪の谷戸八右衛門の屋敷跡
8 谷戸城跡	北杜市大泉町谷戸字城山他	逸見義清が築城した城(国指定史跡)
9 白旗神社	北杜市大泉町西井出 8240-346	逸見有義が白旗を埋めたとされる神社
10 源太ヶ(げんたが)城跡	北杜市須玉町上津金 2449-1	佐久往還を押さえる城(市指定史跡)
11 海岸寺	北杜市須玉町上津金 1222	源義光が信仰し、子の義清も多くの寺領を寄進した
12 旭山塁跡	北杜市高根町村山東割字古城跡	北条氏の未完成の城
13 古宮(ふるみや)城跡	北杜市下津金字御所	津金衆の城跡
14 金生(きんせい)遺跡	北杜市大泉町谷戸 105	深草館の外郭とされる遺跡(国指定史跡)
15 深草館跡	北杜市長坂町大八田	逸見氏家臣である堀内氏の居館跡(県指定史跡)と伝わる
16 小和田館跡	北杜市長坂町大八田字古屋敷	ほ場整備の発掘で見つかった、主が不明の館跡
17 石尊神社	北杜市白州町鳥原 3107	武田氏家臣である馬場信春が金を寄進した神社
18 鳥原城山	北杜市白州町鳥原万燈火山	教来石氏の要害
19 教来石民部(きょうらいしひんぶ)館跡	北杜市白州町鳥原字日向	武田氏家臣である馬場信春の居館跡
20 笹尾塁跡	北杜市小淵沢 754-1	武田信虎が造った対信州戦線の要の一つ(市指定史跡)
21 西倉館跡	北杜市長坂町大八田字西倉	武田信玄が造った対信州戦線の要の一つ(市指定史跡)

21	白尾城跡	北杜市須玉町中丸字小尾平	津川衆の一門の小尾氏の居城であったとされる
22	清光寺	北杜市長坂町大八田 6600	逸見清光の菩提寺で総門(市指定文化財)がある
23	熱那(あつな)神社	北杜市高根町村山西割 1714	武田氏が戦勝を祈願した神社で本殿(市指定文化財)がある
24	鎧堂観世音	北杜市高根町蔵原 1536	源義光が祈願した観世音菩薩がある寺
25	自元寺	北杜市白州町白須 1364	武田氏家臣である馬場信春の菩提寺
26	清泰(せいたい)寺	北杜市白州町花水 1461	甲斐源氏の逸見義清が開いた寺
27	中丸砦跡	北杜市長坂町中丸字城山	逸見清光の砦跡と言われ、後に北条氏が使ったとされる
28	穂見諏訪十五所神社	北杜市長坂町長坂上条 1461	武田信虎が始めた筒粥神事(市無形民俗文化財)が行われている
29	龍岸(りゅうがん)寺	北杜市長坂町長坂上条 1666	真田昌幸の弟である信伊の墓(市指定文化財)がある
30	深沢砦跡	北杜市白州町花水字押野	武田氏家臣深沢氏の砦という伝承がある
31	長閑(ちょうかん)屋敷跡	北杜市長坂町長坂上条	長坂釣閑齋(ちょうかんさい)光堅の屋敷跡(市指定史跡)
32	中山砦跡	北杜市武川町三吹 3037	武川衆の砦跡(市指定文化財)
33	柳澤寺跡	北杜市武川町柳沢 1539	六地藏石幢(市指定文化財)が残る
34	柳澤氏発祥の地	北杜市武川町柳沢	武川衆の一門である柳澤氏の拠点地域
35	高龍寺	北杜市武川町山高 2480	武川衆の一門である山高氏の墓(市指定文化財)がある
36	幸燈(こうとう)神社	北杜市武川町山高 2529	山高氏ゆかりの神社
37	萬休院	北杜市武川町三吹 2915	馬場信春の子である馬場昌房が開基した寺
38	実相(じっそう)寺	北杜市武川町山高 2763	一条氏、山高氏の館跡。国指定天然記念物の桜がある
39	星山古城跡	北杜市武川町真原	柳澤氏の城跡とされている
40	若神子(わかみこ)城跡	北杜市須玉町若神子 2852	源義光が古城(市指定史跡)、北条氏が北城を築城した
41	大坪砦跡	北杜市高根町箕輪字大坪原	北条氏により築かれた砦
42	正覚寺	北杜市須玉町若神子 2739	源義清が父義光の菩提寺として建立した寺
43	大豆生田(まみょうだ)砦跡	北杜市須玉町大豆生田	天正壬午の乱の時に北条氏が造った砦があったとされる場所
44	三嶋神社	北杜市須玉町大蔵字宮久保 1561	武田信虎が信州での戦いの途中に戦勝祈願した神社
45	勝永(しょうえい)寺	北杜市明野町上神取 1091	武田氏家臣の屋代勝永の墓(市指定文化財)がある
46	屋代氏館跡	北杜市明野町上神取	武田氏家臣の屋代勝永の居館跡で土塁(市指定史跡)が残る
47	中尾城跡	北杜市須玉町小倉字中尾	絵図が残っており、大きな堀が付属した城
48	信光寺	北杜市須玉町東向 2679	武田信光の菩提寺と伝わる
49	獅子吼(ししく)城跡	北杜市須玉町江草 5340	江草信泰や北条氏が使用した城(市指定史跡)
50	見性(けんしょう)寺	北杜市須玉町江草 7772	江草氏の菩提寺
51	十五所神社	北杜市須玉町江草 11280	武田信意が建てた神社
52	大渡の烽火台跡	北杜市須玉町江草 16042	塩川の烽火台群の一つ(市指定史跡)
53	小森山の烽火台跡	北杜市須玉町江草字岩下	塩川の烽火台群の一つ
54	比志城跡	北杜市須玉町比志 3732-1	塩川の烽火台群の一つ(市指定史跡)
55	比志神社	北杜市須玉町比志反保 872	信州系大工の技術が残る本殿(県指定文化財)がある
56	前の山の烽火台跡	北杜市須玉町比志字前の山	塩川の烽火台群の一つ
57	神戸の烽火台跡	北杜市須玉町小尾字神戸西	塩川の烽火台群の一つ
58	和田の烽火台跡	北杜市須玉町小尾字和田	塩川の烽火台群の一つ
59	黒森の烽火台跡	北杜市須玉町小尾字黒森万燈火山	塩川の烽火台群の一つ
60	信州峠防塁跡	北杜市須玉町小尾	対信州のための防塁
61	長清(ちやうせい)寺	北杜市明野町小笠原 1205	甲斐源氏の小笠原長清の菩提寺
62	深山田(みやまだ)遺跡	北杜市須玉町大豆生田 961-1	中世の宗教関連施設の遺構から青銅製鏡(県指定文化財)が出土
63	宗泉(そうせん)院	韮崎市円野町上門井 3481	武田信玄家臣の山本勘助の供養塔がある寺
64	重久(じゅうきゅう)の烽火台跡	韮崎市穴山町重久	烽火台があったと思われ、獅子吼城跡が見える
65	満福寺	韮崎市穴山町 1509	武田信武の子孫である穴山氏の墓(市指定文化財)がある
66	能見(のうけん)城跡	韮崎市穴山町	新府城の防塁
67	新府城跡	韮崎市中田町中條上野字城山	武田勝頼最後の本拠地(国指定史跡)
68	光明寺	韮崎市藤井町駒井 654	武田氏家臣の木曾義昌の息子千太郎らの墓(市指定文化財)がある
69	青木氏屋敷跡	韮崎市青木	武川衆の一門である青木氏の館跡
70	常光寺	韮崎市清哲町青木 2878	常光寺青木氏歴代の墓(市指定文化財)がある
71	日ノ出城跡	韮崎市穂坂町日之城	日一揆の拠点(市指定史跡)
72	神明神社	韮崎市穂坂町三之蔵 3333	日ノ出城と関わりが深く、武田氏家臣の小幡日城が修築
73	柳平烽火台跡	韮崎市穂坂町柳平城山	「新府城が焼けるのを眺めた」という伝承がある烽火台
74	若宮八幡宮	韮崎市若宮町1丁目 4-14	鎌倉時代に建立され、徳川家康が領地を安堵した神社
75	大坪古戦場跡	韮崎市富士見1丁目	武田信虎が信州の諏訪氏などに勝った戦場の跡
76	武田信義館跡	韮崎市神山町武田 556-2	甲斐武田氏の始祖である武田信義の館跡(市指定史跡)
77	願成寺	韮崎市神山町鍋山 1111	武田信義の墓と伝わる五輪塔(市指定文化財)がある

甲斐武田氏の始まりの地



119 しょうげん 松元寺



松元寺

武田氏に仕えた大野主水が創建したと伝わる寺院。大野主水は温泉郷を開いた人物で、本尊である観音菩薩像は「身代わり観」として親しまれている。

121 ほうせん 法泉寺



法泉寺

武田信武が創建した寺院で、後に信玄が甲府五山に指定した。境武田信武の墓と武田勝頼の墓は、甲府市指定史跡である。京都の河原でさらされていた勝頼の首をこの寺へ埋めて供養したと伝わる。

125 武田氏館跡



武田氏館跡

永正十六(1519)年に武田信虎が築き、信玄、勝頼と三代にわたる居館であり、今は武田信玄を祀る武田神社として親しまれている。在も土塁や堀、門の礎石が良好に残るほか、発掘調査では、大手や武田氏築城技術の特徴とされる丸馬出が見つかった。高麗青金で装飾された馬のよろいなど武田氏の権力を示す資料が見ついている。現在も調査が続いており、今後の成果が期待される。

127 円光院



元は武田信守が父信重の菩提寺とした寺で、信玄が現在の地に移転させた。信玄の妻である三條夫人の菩提寺とした。裏手には三條

77	願成寺	葦崎市神山町鍋山 111	武田信義の墓と伝わる五輪塔(市指定文化財)がある
78	武田八幡神社	葦崎市神山町北宮地 1185	本殿(国の重要文化財)などがある武田氏ゆかりの神社
79	為朝神社	葦崎市神山町北宮地 1185	武田信義が源為朝を祀った神社
80	白山城跡	葦崎市神山町鍋山	武田信義の要害(国指定史跡)
81	大輪寺	葦崎市旭町 2990	武川衆の一門の甘利氏の菩提寺であり、以前は館が建っていた
82	八幡神社(甘利八幡)	葦崎市旭町上條北割 3884	武川衆の一門である甘利氏ゆかりの神社
83	扇子平(おうぎだいら)城跡	葦崎市大草町上条中割	武川衆の一門である甘利氏の要害
84	南宮大神社	葦崎市大草町上条東割 790	武川衆ゆかりの神社
85	八幡諏訪神社	甲斐市宇津谷 5734	享禄七年に武田信虎が本陣を置いた神社
86	諏訪大神社(穂坂惣社)	甲斐市宇津谷 1016	信玄が修理したときの棟札(市指定文化財)がある
87	光照寺	甲斐市岩森 1622	戦国時代の戦火をまぬがれた薬師堂(国の重要文化財)がある
88	諏訪神社	甲斐市竜地 5280-1	信玄の偉業をしのんだ武田不動尊が祀られた神社
89	平見城(ひらみじょう)の烽火台跡	甲斐市上芦沢平見城	天正壬午の乱の時に御岳衆が守った烽火台
90	福沢の烽火台跡	甲斐市神戸	蚕影(こかげ)山の平場が烽火台と伝わる
91	天澤(てんたく)寺	甲斐市亀戸 2609	飯富(おぶ)氏の菩提寺、県指定文化財の六地藏石幢がある
92	飯田河原合戦供養板碑	甲斐市島上条 309	武田信虎が今川氏と戦い大勝した戦場の跡
93	慈照寺	甲斐市竜王 629-1	武田氏の一族の諸角昌清によって建てられたとされる寺
94	信玄堤	甲斐市竜王 1886-4	武田信玄が造ったという伝承が残る堤防跡
95	旧竜王河原宿石橋	甲斐市竜王	戦国時代に架けられた竜王河原宿(市指定文化財)の石橋
96	本妙寺	甲斐市篠原 139	飯富氏の家臣である三井氏の菩提寺とされる
97	篠原壘址	甲斐市篠原 2319	飯富氏の家臣である三井氏の館跡とされる場所
98	榎俣遺跡	甲斐市篠原 4207	中世の五輪塔が見つかった遺跡
99	飯富(おぶ)氏屋敷跡	甲斐市西八幡	飯富氏の屋敷跡
100	八幡神社	甲斐市西八幡 918	地域の由緒ある神社で、躑躅ヶ崎に勧請された
101	御岳の城山跡	甲府市御岳町天狗山	御岳衆の烽火台の一つ
102	猪狩(いかり)の城山跡	甲府市猪狩町城山	御岳衆の烽火台の一つ
103	川窪の城山跡	甲府市川窪町城山	甲府防衛の一環の物見台
104	平瀬の烽火台跡	甲府市平瀬町城山	甲府防衛の一環の物見台
105	太良(たら)峠烽火台跡	甲府市上積翠寺町嵐	甲府防衛の一環の物見台
106	要害山	甲府市上積翠寺町	武田氏館跡の要害(国指定史跡)
107	積翠寺	甲府市上積翠寺町 984	武田信虎の妻大井夫人が信玄出産の時に使った産湯の井戸がある
108	一の森烽火台	甲府市上積翠寺町字一の森	甲府防衛の一環の烽火台
109	長宝寺	甲府市下積翠寺町 108	武田義信や駒井氏の屋敷が付近にあったとされる
110	宝積寺	甲府市下積翠寺町	武田氏家臣駒井高白斎(こうはくさい)の息子昌直の墓がある
111	鐘推堂(かねおしどう)山物見	甲府市塚原町鐘推堂山	甲府防衛の一環の物見台
112	恵運院	甲府市塚原町 828	武田信虎の祖父である武田信昌の菩提寺
113	不動が崎物見	甲府市下積翠寺町	甲府防衛の一環の物見台
114	武田竜芳供養塔(聖道墓)	甲府市古府中町	武田信玄の次男である武田竜芳の墓と伝わる
115	小松山烽火台	甲府市小松町小松山	甲府防衛の一環の烽火台
116	和田の城山跡	甲府市和田町八王子山	甲府防衛のために築かれた烽火台
117	法泉寺山の烽火台跡	甲府市和田町	甲府防衛のために築かれた烽火台
118	湯村山城跡	甲府市湯村町城山	甲府防衛のために築かれた城(市指定史跡)
119	松元寺	甲府市湯村 3 丁目 17-8	武田氏家臣で湯村温泉郷を開発した大野主水が建てた寺
120	関屋	甲府市湯村町	佐久往還や穂坂路の通り沿いで甲府への入り口にあたる場所
121	法泉寺	甲府市和田町 2595	武田信武と武田勝頼の墓(ともに市指定史跡)がある
122	万寿森古墳	甲府市湯村 3 丁目 8-41	武田氏や徳川氏の火薬庫として使われた古墳(県指定史跡)
123	古八幡神社	甲府市古府中町 1529	武田信光が石和に建て、武田信虎が武田氏館跡付近に移し、武田氏が代々崇めた。その後、甲府城築城に伴い現在地へ移された
124	甲斐惣社八幡宮	甲府市宮前町 6-47	当時、躑躅ヶ崎館と呼ばれた武田氏三代の居館(国指定史跡)
125	武田氏館跡	甲府市古府中町 2611	武田信玄が風景を楽しむための東屋が建てられていた場所
126	躑躅ヶ崎(つじがさき)遊亭跡	甲府市古府中町	武田信玄の妻の三条夫人の墓(県指定史跡)がある寺
127	円光院	甲府市岩窪町 500	武田信玄の死後、遺体を3年間隠すため最初に置かれた場所
128	武田信玄火葬塚	甲府市岩窪町 217	武田氏滅亡後領主である河尻秀隆の墓(市指定史跡)がある
129	河尻塚	甲府市岩窪町 265	甲府防衛の一環の物見台
130	茶道(ちゃどう)峠の烽火台跡	甲府市岩窪町	



円光院

⑬7 甲府城跡



甲府城跡

⑭6 甲斐善光寺



甲斐善光寺

⑮4 勝山城跡



勝山城跡

し、信玄の妻である三条夫人の菩提寺とした。裏手には三条夫人の墓が残っている。寺には信玄が陣中の守り本尊としていた木造毘沙門天及び勝軍地藏坐像(県指定文化財)が納められている。

武田氏滅亡後に徳川氏または豊臣氏により築城された。城の範囲現在整備されている範囲よりも広く、県庁やJR甲府駅までその囲になる。山梨県内唯一の惣石垣として、天守台や本丸などに時の石垣がよく残っており、自然面の石材を野面積みの技法で上げた貴重な築城期の石垣であることから、国の史跡に指定された。周囲には城下町が造られ、現在の甲府市街の原型となった。

永禄元(1558)年、信玄が川中島の戦いの時に信濃善光寺が焼けるのを恐れて、この場所に善光寺を建て、如来坐像を祀った。現在堂(重要文化財[建造物])は東日本でも有数の規模で、銅造阿彌如来及両脇待立像三軀(重要文化財[彫刻])が本尊として崇められている。この寺には一時甲斐国を治めた加藤光泰の墓(甲府市指定史跡)もある。

武田信虎の叔父、油川信恵の城とされている。その後、駿河の今川が侵攻した際に2度、さらに天正壬午の乱の時に徳川家康の家部半蔵(正成)がこの城に陣を張っている。頂上の主郭を中心にした曲輪が造成され、その下部に帯曲輪がめぐる。

名称	所在地		
131	御崎神社	甲府市美咲 2-10-34	武田信虎により笛吹市から
132	梅屋敷天満宮	甲府市天神町 14	元上杉氏家臣で武田氏家
133	大泉寺	甲府市古府中町 5015	武田信虎の墓(県指定史跡)
134	妙遠(みょうおん)寺	甲府市元紺屋町 83	山県昌景が開いたとされ
135	愛宕神社	甲府市愛宕町 134	武田氏館跡を守護する神
136	能成(のうじょう)寺	甲府市東光寺町 2153	元は笛吹市にあった武田
137	甲府城跡	甲府市丸の内 1-6-1	徳川氏と豊臣氏により築
138	長禅寺	甲府市愛宕町 208	武田信虎の妻大井夫人の
139	来迎(らいごう)寺	甲府市東光寺 1 丁目 3-38	武田信玄が北条氏に援軍を
140	尊躰(そんたい)寺	甲府市城東 1-13-1	徳川氏家臣で内政で権勢
141	教安(きょうあん)寺	甲府市城東 2 丁目 8-4	徳川家康の八男仙千代の
142	信立(しんりゅう)寺	甲府市若松町 6-8	武田信虎が病気の回復を
143	一蓮(いちれん)寺	甲府市太田町 5-16	元は甲府城の場所に一条
144	遠光(おんこう)寺	甲府市伊勢 2 丁目 2-3	甲斐源氏の加賀美遠光が
145	東光寺	甲府市東光寺 3-7-37	武田義信や諏訪頼重の墓

きょうらいしんぶん
①9 教来石民部館跡



教来石民部館跡

「鬼美濃」として恐れられた馬場信春の館跡と伝わる。馬場信春は、もとは教来石景政と名乗った教来石氏の一族である。発掘調査や地中レーダー探査により堀跡などが見つかっており、出土遺物から館があった時期は14世紀前半から16世紀中頃と考えられている。

ささお
②0 笹尾塁跡



笹尾塁跡

武田信虎が信濃との国境を強化するために築いた砦跡で、南側に大きな堀や土塁をともなう曲輪が残っている。北杜市指定史跡。釜無川を渡った対岸に鳥原城山がある。異常時には笹尾塁で鐘を鳴らすと鳥原城山で太鼓を打ったとされる。

よろいどうかん ぜおん
②4 鎧堂観世音



鎧堂

十一面観音を崇拜する源義光は合戦の際にそのご加護を受け、十一面観音像を祀るお堂を建てた。併せて自身の甲冑を一式奉納したことから、鎧堂観世音と呼ばれる。武田信玄は信濃攻略の際にここで戦勝祈願した。

やしるし
④6 屋代氏館跡



屋代氏屋敷跡

武田氏家臣の屋代勝永の居館跡。居館の周囲に築かれた土塁の一部が残っている。発掘調査では主屋、台所、馬屋と考えられる建物跡などが発掘された。当時の領主層の生活を知る上で貴重な発見となった。北杜市指定史跡になっている。

おおわり のろしだい
⑤2 大渡の烽火台跡



大渡の烽火台遠景

鳥井坂トンネルの上にある。頂上に主郭が造られ、主郭の西側に堀切があり、防御を意識して造られている。北杜市指定史跡になっている。

じょうこう
⑦0 常光寺



常光寺青木氏歴代の墓

武川衆の一門、青木氏の菩提寺。寺の開基は二代目の青木常光であり、青木氏歴代の墓がある。墓は市指定史跡。

りゅうがん
②9 龍岸寺



真田信伊の墓

北杜市指定文化財である真田隠岐守信伊の墓がある寺院。信伊により再興されたため、真田氏の家紋である六文銭を寺紋に掲げている。信伊は武田氏家臣であったが、武田氏滅亡後は徳川氏に仕え、主君である徳川家康と兄である真田昌幸の仲介役を務めている。新府城跡付近に信伊の屋敷跡と思われる隠岐殿遺跡がある。

わかみこ
④0 若神子城跡



若神子城跡（古城）

佐久往還や棒道が交差する交通の要衝を抑える重要な城である。城は北城、古城、南城に分けらる。古城は源義光の城とされ、北杜市指定史跡になっている。北城は天正壬午の乱で北条氏直が造った。現在はテニスコートの南側に大きな堀切や張り出しをもつ土塁が残る。

④4 三嶋神社



三嶋神社拝殿

天文五(1536)年に武田信虎が佐久地方の武将である平賀玄信を攻める際にこの神社で休憩・戦勝祈願し、下馬札を与えたとされる。以来、武田氏が崇拜した。

ししく
④9 獅子吼城跡



獅子吼城跡遠景

15世紀初め頃に造られとされ、江草氏が使っていた。天正壬午の乱では北条氏が陣取り、徳川氏家臣の服部半蔵(正成)により制圧された。城の東側に空堀や石積み土塁が残る。北杜市指定史跡になっている。

ひし
⑤5 比志神社



比志神社拝殿

大宝元(701)年に建てられ、日本三代実録に名のある古社。本殿は大永八(1528)年に再建され、室町時代の信州系大工の技巧が見られ、昭和40年に県指定文化財になった。境内の大杉は県指定天然記念物である。

⑦1 日ノ出城跡



日ノ出城跡

日ノ出城跡は穂坂路と逸見路の分岐点で、塩川によって削られた断崖上にあり、交通と防衛を意識した場所にある。武田信長に従った日一揆が使い、跡部氏や逸見氏などと戦った。葦崎市指定史跡になっている。

49

穂坂路

87 光照寺



薬師堂

92 飯田河原合戦供養板碑



板石塔婆

72

83 おうぎだいら 扇子平城跡



扇子平城跡遠景

大輪寺 81 の奥に見えるけわしい山の尾根上にある城で、甘利氏の要害とされている。枡形虎口をもつ主郭があり、尾根の先端には烽火台と思われる平場がある。

84 南宮大神社



隨身門

源義光が社殿を造営し、武田信義も崇拜した。武川衆全体で神社に奉仕した記録からも、武川衆の信仰を集めた。

91 てんたく 天澤寺



天澤寺山門

室町時代後半に飯富虎昌により建てた寺院。以後、飯富氏の菩提寺となり、境内には虎昌や武田四名臣である山景(飯富)昌景の墓がある。山門、六地藏は県指定文化財に指定されている。

93 慈照寺



慈照寺

寺記によれば、武田氏一門とされる諸角昌清の開基と伝えられる。山門や法堂は江戸時代初期に建てられたもの。慈照寺文書は武田信虎や信玄の時代の様子を知ることができる史料であり、これらは県指定文化財になっている。

89

90

102

101

103

73

106 要害山(要害山城・熊城)



要害山遠景

武田氏館跡 125 の詰め城跡が残る。山頂部に主郭が造られ、その途中には枡形虎口や堀跡、石積み門跡が残る。飯田河原合戦の時に信玄はこの城で生まれたと伝わる。

109 宝積寺



駒井昌直の墓

武田氏家臣である駒井昌直が開基の寺院で、昌直自身の墓と伝わる五輪塔がある。

112 恵運院



恵運院

武田信繩の菩提寺で武田氏の崇敬が厚い寺院。武田信玄が寄進した水晶の数珠や、武田信廉(逍遙軒)の画である県指定文化財(絵画)「絹本著色雪田和尚画像」などがある。

⑪⑧ 湯村山城跡



湯村山城跡遠景

武田信虎により造られた城。周囲には土塁が巡り、土塁上には櫓が建っていたと考えられる。発掘調査では枅形虎口や、井戸が見つかった。甲府市指定史跡になっている。

時を超えた二つの城下町

「治水ノ難波」と「甲山の猛虎」ゆかりの地



だいせん ⑬③ 大泉寺

武田信虎の菩提寺。お堂の裏手にほうきょういしとう 宝篋印塔が三つ並び、それぞれ信



大泉寺



尊跡寺にある大久保長安の墓



源有雅の墓



敬泉寺から見た金刀比羅山砦跡

虎、信玄、勝頼の墓とされている。寺には、信虎の三男である信廉(逍遙軒)が描いた重要文化財(絵画)である絹本著色武田信虎像など武田氏ゆかりの品々が多く納められている。

武田信虎が建てた寺院。天正年間に徳川家康が陣屋をしたともいわれている。寺には徳川氏の下で武田氏滅亡後に混乱した甲斐国の内政再建を担当した大久保長安の墓がある。

源有雅は鎌倉時代の武将で、後鳥羽上皇が鎌倉幕府に対して起こした承久の乱では上皇側の武将として活躍した。しかし、敗れて甲斐源氏の小笠原長清により甲府市小瀬にて斬首された。小瀬団地の中に彼の墓と伝わる源有雅の墓(甲府市指定史跡)がある。

天正壬午の乱の際に徳川氏が使ったとされる。砦跡は山の尾根を堀切で区切って三つの曲輪からなる。この地は、駿河への街路である中道往還があり、街道の監視に適した土地である。



概要
多され、徳川の時代に現在地へ移った神社
になった大熊朝秀の屋敷跡
がある
寺
で、徳川家康が甲府城の鬼門へ移した
守の菩提寺
れた城(国指定史跡)
がある寺
送ったお礼としてもらった阿弥陀像がある
持った大久保長安の墓がある寺
菩提寺
り、回復したため建てた寺
頼が建てた寺
てた寺
ある寺で仏殿(国の重要文化財)がある

名称	所在地	概要
146 甲斐善光寺	甲府市善光寺 3-36-1	信濃善光寺から本尊を移した寺、加藤光泰の墓(市指定史跡)がある古墳であるが、小山田信茂の墓とも伝わる
147 地藏塚古墳	甲府市善光寺町	
148 板垣山の烽火台跡	甲府市酒折町	板垣山にある烽火台跡
149 逍遙(しょうよう)院	甲府市桜井町 999	武田信虎の三男である信廉(逍遙軒)の菩提寺
150 川田館跡	甲府市川田町	躑躅ヶ崎館に移る前の居館
151 源有雅(みなもとのありまさ)墓	甲府市小瀬町 99	承久の乱で処刑された源有雅の墓(市指定史跡)がある
152 今井肥後守墓	甲府市上今井町 2577	信虎に最後まで抗った今井信元の墓、富春院にある
153 高室家住宅	甲府市高室町 754	武田氏家臣の高室氏の屋敷跡(国の重要文化財)
154 勝山城跡	甲府市上曾根町 2248	武田信虎の叔父の油川信恵の拠点とされる城
155 下曾根氏屋敷跡	甲府市下曾根町 161	武田信重の子賢範の子孫下曾根氏の屋敷跡、現在は実際寺の境内
156 向山氏屋敷跡	甲府市上向山町	地元の豪族と伝わる向山氏の屋敷跡、現在は清源寺の境内
157 敬泉(けいせん)寺	甲府市右左口町 64	徳川家康が兵士のために仮小屋をたてた寺
158 右左口(うばぐち)砦跡	甲府市右左口町	天正壬午の乱の時に使われた徳川氏の砦
159 金刀比羅(こんびら)山砦跡	甲府市右左口町	天正壬午の乱の時に使われた徳川氏の砦
160 土橋大内蔵屋敷跡	甲府市古関町	上九一色衆の土橋氏の屋敷跡及び石廟